

2004
No. 13

あさか が ざ

朝霞市男女平等推進情報紙

特集

広岡守穂さんに聞いてみました
チャレンジってどんなことなの？



もくじ

身近な女性たちにインタビュー

昔VS今 台所事情あれこれ

朝霞市女性総合相談

いろいろ情報

「あさか女と男プラン推進委員会」セミナー・そよかぜ担当委員の紹介



— 広岡守穂さんに聞いてみました —

チャレンジってどんなことなの？

いつでも、どこでも、だれでもできる！



※チャレンジ支援ネットワーク検討会委員になられたきつかけは？

実験が大きいですね。連れ合いが学生結婚してそのまま専業主婦になったのですが、38歳の時から社会活動や仕事を始めたんです。もともと僕の研究テーマがエンパワメント（女性が力をつける）と子育てなので。チャレンジ支援というのはエンパワメントの支援でしょう。例えば公民館で学習して、そこからヒントを見出す。検討会でもそういうことを繰り返し強調してきました。



女性のチャレンジを阻むものとは？

やはり一つは、子育てだと思えます。どうしても子どもや家族と仕事を天秤にかけてしまう。フルタイムで働いている人だと、そのことに責任を感じて友人とのつき合いは疎遠にな。反対に、専業主婦は子育て中

いろいろチャレンジする。でも長続きしない。挫折すると、それがプラスに働かないでマイナスになる。「やっぱり私は駄目なんだ」となってしま。しかし、それが夫にとっては気持ちがいい。「ちよつと駄目な、自信がない女でいてほしい」と思ったりもするのです。でも「今日、子どもがね」と話題にすれば、「何てつまらない女と結婚したんだ」って思ってしまう。多くの男性はこうだと思います。それは一番安定した安全な男の生きる道と想っているんですが、本当は安定でも安全でもないのです。もう一つは、男性の自信のなさ

一歩を踏み出すためのアドバイスとは？

それはチャレンジ支援の活用。「私はこうなりたいんですが、どうすればいいんですか？」という、ある程度目的意識のある人に対しては、コディネーターが「ではこれとこれとこれ」というふうにアドバイスをあげます。漠然と「何をしたらいいでしょうか？」という人には、アドバイザーがアドバイスをします。つまりその多様な段階に対応できない

チャレンジする女性に支援メッセージを

人生は自分育てというのがテーマになっている。また自分育てというのがチャレンジでもあってほしい。男は三度勝負するというけれど、女も三度でも四度でも勝負してください。人生を有意義に過ごすためにも、何度でもチャレンジしてほしい。チャレンジは力になるのです。

ひろおかもちほ 広岡守穂さんプロフィール
1951年石川県生まれ。中央大学法学部教授。専攻の政治学の他、男女共同参画やNPOなど幅広い分野で活躍中。著書『「豊かさ」のパラドクス』（講談社）『男だって子育て』（岩波書店）『妻が僕を変えた日』（フレーベル館）他多数。平成15年10月1日より朝霞市男女平等苦情処理委員。

チャレンジ支援ネットワーク検討会

平成15年4月、国の男女共同参画会議において決定された「女性のチャレンジ支援策」についての有識者等による検討会。チャレンジしたいと考える女性が、必要とする情報をいつでも、どこでも、だれでも、欲しい時に関係機関の垣根を越えて容易に入手することができる効率的な情報提供システムを構築するため、総合的な情報提供システムの在り方や、地域における支援拠点の在り方について検討を行った。平成15年度中に開催され、平成16年3月、報告書が発行されている。

身近な女性たちにインタビュー

現在の仕事にチャレンジしたきっかけは？

チャレンジしてよかったこと、大変だったことは？

渡邊美知子さん



子育てや地域活動のかたわら続けてきた薬剤師としての仕事

面白く、息子と共に5年前に開局しました。勤務をすることは違う厳しさを経営者となり実感していますが、子育ての時とまた違ったいろいろな方々と出会うことも楽しく、一人ひとりの患者様や、お客様を通し社会に関わっていけることが嬉しです。

プロフィール

「わたなべ薬局」(西弁財) 経営者。子育て中はPTA活動やあさが親子劇場の活動など、地域活動を精力的に行う。活動で得た友とは、現在もサークル「ハーフタイム」を組織。情報の拠点ともなっている。

進藤栄子さん



いずれば親の介護をするのだから、そのために、情報を得て勉強してみたいと思ったからです。

たくさんの方との出会いです。高齢者は、人生の先輩であり教えていただくことが多く勉強になります。家庭との両立が一番大変ですね。仕事はきりがないので、一線を引いています。今は、家族も理解し、協力してくれそうです。

プロフィール

高齢者のデイサービスセンター「ひいらぎの里」(岡)センター長。子どもの幼稚園入園を機に市のホームヘルパーを始める。その後、社会福祉協議会での仕事を経て介護福祉士を取得。1男2女の母。

太田佳代子さん



3児の母として育児に専念していた時に、さまざまな居場所を欲していて、子育て経験を生かした仕事をしたいと思ったからです。職場で、異年齢の子とも達と触れ合うことはとても楽しく、時には自分の子育てに役立つ気付きが得られます。また、その一方で子ども達の気持ちを感じ取る難しさに直面することもあり、まだまだ修行の日々です。

プロフィール

はまさき児童館臨時職員。3児の母として子育て真っ最中に児童館に出会い仕事を始める。同時期に「ASAKAIくじネットワーク」の立ち上げに関わり、現在も仕事と共に「地域での子育て」活動を展開中。

台所事情 あれこれ



キッチンが女の城：なんて言われています（ました？）が、現代ではその中心に台所が位置している家が多くなります。女性の発言権が大きくなって、生活の中心は水まわりに集まることになったせいでしょうか。その昔、江戸時代の庶民の台所は一体どんなだったのでしょうか。

深川江戸資料館に行くと、そんな疑問に答えてくれます。江戸の長屋が再現されていて、一目瞭然。これだけ？と驚いてしまうくらい質素で簡単な台所です。玄関のわきに申し訳程度に置かれた水瓶と竈。台所だけでなく、家そのものがとにかく質素。狭い。住人たちは長屋の共同の井戸のそばで、洗い物や食事のしなくてはなりません。米・野菜・魚・豆腐など生活に必要なものは、行人が井戸端まで何でも売りに来たのだそうです。おでんや茶飯などの食

べ物屋まで移動レストランよろしくやって来たらしい！そこはまさに情報交換の場であり、コミュニティそのものですね。各家庭に立派な台所は必要なかったとも言えます。七輪は持ちまわりで貸し合ったり、米、味噌などの食品の貸し借りは日常茶飯事。長屋全体がひとつの家族であり、井戸端はまさに長屋の台所だったのです。

一方、現代の家は台所がすっぽりと取り込まれた形になっています。キレイなシステムキッチンを汚さないよう、揚げ物など油ギトギトになるものはしない。包丁やまな板がない、なんていう家庭もあるらしい（これはホントかな…。近所との交流も希薄になって、お互い干渉しない現代の生活。気楽な面もあるけれど、問題もいろいろ出ています。昔と比べたら格段に清潔で便利な現代の台所。でも孤立して囲い込まれた閉鎖空間となると少し怖いですね。外の社会につながる開かれた窓のあるキッチンにできればいいのですが…。

参考図書

- 雑学『大江戸庶民事情』
石川英輔 講談社文庫
『家をつくる』ということ
藤原智美 プレジデント社
大江戸庶民のあつと驚く生活考
渡辺信一郎 青春出版社
他

いそいそ情報

あさか女と男セミナー (中学生向け)を開催しました！

「ジェンダーってなあに？」
～テレビの中の彼と彼女～

平成16年7月7日、朝霞第五中学校において、第一学年の生徒を対象に、講師に諸橋泰樹さん(フェリス学院大学文学部教授)を迎えて開催しました。

参加者アンケートの声

- ・テレビCMだけでこんなことがわかるなんてすごかった
- ・女なんだから、男なんだからとかがなくなれば良いと思った。
- ・将来のためにはっきり考えを言える人になりたい。
- ・なんとなくジェンダーのことがわかった。
- ・男性が家事をやるなんて初めて知った。 他多数

DV防止法が改正されました！

DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律)の改正が行われ、本年12月に施行されることとなりました。主な改正点は、被害者の申立てにより、元配偶者に対しても裁判所が被害者保護のための保護命令を出せるよう対象者を拡大した点と、暴力を振るう配偶者に対して、被害者の子へも接近禁止命令を発することができるようにした点、配偶者に対する退去命令期間を2週間から2か月間に拡大した点です。

朝霞市女性 総合相談

悩める女性のために

相談日 毎週木曜日

(祝・休日にあたる場合は前日)

時間 午前10時～午後3時

家族間のもめごとや対人関係の悩み
暴力や虐待、離婚問題など
あなたの悩みや問題などに対して
経験豊かな専門家が
ご相談をお受けします。

個人の秘密は守ります。
相談は無料です。

場所 市役所1階 市民相談室

問合せ 市民生活課女性政策係

電話 048-463-2697(直通)

あさか女と男プラン推進委員会 セミナー担当委員の紹介

男女が平等な社会をめざし、学習セミナーの企画や運営をしています。今年度は、来年の1月下旬からセミナー「なぜ女も男も生きにくいのだろう」―正しいジェンダーを学ぶ―を開催する予定です。お楽しみに。

阿部哲子、親松実、金子良子、川野紀代美、木村昌代、崎上徳子、橋、早智子、春野真徳、吉田雅代、綿谷厚子

そよかぜ担当委員の紹介

企画や取材・編集を行っています。
秋山和子、栗島佳織、茂木静枝、横田暁子

編集後記

何かをしたいけどどうしたらいいかわからない、何もしないうちに月日はどんどん過ぎていく、という方多いのではないのでしょうか。今回の特集テーマ「身近なチャレンジ支援」をきっかけに一步踏み出してみませんか。市や県の広報紙には情報が満載です。家族の応援もきくと得られると思います。(Y)